

社会資本総合整備計画

白鷺一丁目地区における

広域防災拠点及び地域生活拠点の早期整備

事後評価書

中野区

平成28年6月

(様式2) 社会資本総合整備計画（市街地整備） 事後評価書

計画の名称	白鷺一丁目地区における広域防災拠点及び地域生活拠点の早期整備																																									
計画の期間	平成22年度～平成26年度（5年間）			交付対象	中野区																																					
計画の目標																																										
<p>当地区周辺は、災害危険度が高いことから防災性の向上が課題となっているとともに、地域交流のための施設やオープンスペースなどが不足していることから、本計画において、治水上の防災拠点となる鷺宮調節池上部の人工地盤を活用した広場の確保や緑の保全・創出、また地域住民が交流できる集会施設等の集中的な整備を行うことにより、広域防災拠点及び地域生活拠点としての早期形成を図るものである。</p>																																										
<p>計画の成果目標（定量的指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●最遠避難距離を考慮した場合の白鷺一丁目地区への避難対象住民一人あたりの避難有効面積 現況値0.92㎡/人 → 目標値1.13㎡/人 ●鷺宮区民活動センター管内の集会室利用件数 現況値4,400件 → 目標値6,000件 																																										
<p>定量的指標の定義及び算定式</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3"></th> <th colspan="6">定量的指標の現況値及び目標値</th> <th rowspan="3">備考</th> </tr> <tr> <th>当初現況値</th> <th>中間目標値</th> <th colspan="3">最終目標値</th> <th rowspan="2"></th> </tr> <tr> <th>(H22当初)</th> <th>(H24末)</th> <th colspan="3">(H26末)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 最遠避難距離を考慮した場合の当該地区における平成22年度の避難対象住民一人あたりの避難有効面積を「現況値」とし、本計画の実施に伴い、地区の防災拠点として広域避難場所（多目的広場）が整備されることを踏まえ、住民の安全・安心度が増す指標として、平成26年度の避難対象住民一人あたりの避難有効面積を「目標値」とする。</td> <td>0.92 ㎡/人</td> <td>0.92 ㎡/人</td> <td colspan="3">1.13 ㎡/人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 鷺宮地域センター管内における平成20年度の集会施設における実利用件数を「現況値」とし、本計画の実施に伴い、地域生活拠点として集会室が整備されることを踏まえ、他地域センター内にある同仕様の地域集会施設の利用件数を参考に、各施設への利用者の分散も考慮した上で当該施設の利用件数を想定し、平成26年度の利用件数を「目標値」とする。</td> <td>4,400 件</td> <td>4,400 件</td> <td colspan="3">6,000 件</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>											定量的指標の現況値及び目標値						備考	当初現況値	中間目標値	最終目標値				(H22当初)	(H24末)	(H26末)			① 最遠避難距離を考慮した場合の当該地区における平成22年度の避難対象住民一人あたりの避難有効面積を「現況値」とし、本計画の実施に伴い、地区の防災拠点として広域避難場所（多目的広場）が整備されることを踏まえ、住民の安全・安心度が増す指標として、平成26年度の避難対象住民一人あたりの避難有効面積を「目標値」とする。	0.92 ㎡/人	0.92 ㎡/人	1.13 ㎡/人				② 鷺宮地域センター管内における平成20年度の集会施設における実利用件数を「現況値」とし、本計画の実施に伴い、地域生活拠点として集会室が整備されることを踏まえ、他地域センター内にある同仕様の地域集会施設の利用件数を参考に、各施設への利用者の分散も考慮した上で当該施設の利用件数を想定し、平成26年度の利用件数を「目標値」とする。	4,400 件	4,400 件	6,000 件			
	定量的指標の現況値及び目標値						備考																																			
	当初現況値	中間目標値	最終目標値																																							
	(H22当初)	(H24末)	(H26末)																																							
① 最遠避難距離を考慮した場合の当該地区における平成22年度の避難対象住民一人あたりの避難有効面積を「現況値」とし、本計画の実施に伴い、地区の防災拠点として広域避難場所（多目的広場）が整備されることを踏まえ、住民の安全・安心度が増す指標として、平成26年度の避難対象住民一人あたりの避難有効面積を「目標値」とする。	0.92 ㎡/人	0.92 ㎡/人	1.13 ㎡/人																																							
② 鷺宮地域センター管内における平成20年度の集会施設における実利用件数を「現況値」とし、本計画の実施に伴い、地域生活拠点として集会室が整備されることを踏まえ、他地域センター内にある同仕様の地域集会施設の利用件数を参考に、各施設への利用者の分散も考慮した上で当該施設の利用件数を想定し、平成26年度の利用件数を「目標値」とする。	4,400 件	4,400 件	6,000 件																																							
全体事業費	合計 (A+B+C)	1,832百万円	A	1,832百万円	B	0百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%																																
事後評価																																										
○事後評価の実施体制、実施時期																																										
事後評価の実施体制					事後評価の実施時期																																					
●本計画の所管である道路・公園管理分野において、最終目標値の達成状況や事業効果を検証するとともに、その要因を分析した。					平成28年度																																					
●事後評価の内容に客観的視点を反映させるために、学識経験者等で構成される評価委員会から意見聴取した。					公表の方法																																					
					中野区ホームページに掲載																																					
1. 交付対象事業の進捗状況																																										
交付対象事業																																										
A1 基幹事業																																										
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	道路種別	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考																									
											H22	H23	H24	H25	H26																											
1-A-1	都市再生	一般	中野区	直接	中野区			白鷺一丁目地区都市再生総合整備事業	人工地盤（多目的広場）	中野区						1,764																										
1-A-2	都市再生	一般	中野区	直接	中野区			白鷺一丁目地区都市再生総合整備事業	集会施設	中野区						39																										
1-A-3	都市再生	一般	中野区	直接	中野区	市町村道		白鷺一丁目地区都市再生総合整備事業	道路整備（橋梁拡幅）	中野区						29																										
小計（基幹事業）																1,832																										
合計																																										
B 関連社会資本整備事業																																										
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考																										
										H22	H23	H24	H25	H26																												
合計																																										
番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考																										
C 効果促進事業																																										
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考																										
										H22	H23	H24	H25	H26																												
合計																																										
番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考																										

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する

交付対象事業の効果の発現状況

- 人工地盤（多目的広場）の整備によりオープンスペースが増加し、避難住民一人あたりの避難有効面積は最終目標値を達成した。
- 鷺宮区民活動センター管内の計6箇所の集会施設の年間利用件数は最終目標値を達成した。

II 定量的指標の達成状況

指標①（避難対象住民一人あたりの避難有効面積）

最終目標値	1.13 m ² /人
最終実績値	1.19 m ² /人

目標値と実績値に差が出た要因

- 最終目標値達成

指標②（集会施設の年間利用件数）

最終目標値	6,000 件
最終実績値	6,040 件

目標値と実績値に差が出た要因

- 最終目標値達成

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況
(必要に応じて記述)

- 人工地盤（多目的広場）に隣接する妙正寺川の阜月橋、弥生橋の2橋を拡幅整備したことにより、対岸から多目的広場への移動が平常時、災害時ともに橋梁幅員がボトルネックになることなく、円滑な移動動線を確保することができた。

3. 特記事項（今後の方針等）

- 本事業地において、都営アパート（地域集会室含む）、調節池・河川・橋梁、人工地盤（多目的広場）の基盤整備が一連に実施され、地域の広域防災拠点及び地域生活拠点としての機能が総合的に向上した。
- 人工地盤（多目的広場）の下部に整備された河川調節地は平成25年度から取水を開始しており、平成25～27年度において計7回の取水実績があり、地域の治水安全度は確実に向上している。
- 多目的広場は、平成27年6月の開園以後は団体スポーツや多世代が利用できる公園として有効に機能しており、特に平成27年度の休日における団体利用率は約90%と非常に高い施設である。今後も高い利用率を継続できるよう日常管理及び定期点検を実施していく。
- 多目的広場は、広域避難場所における一次避難場所となることからマンホールトイレや発動発電機等の防災資機材を有する施設として整備したことで、地元町会の防災に対する意識が向上し避難訓練が自主的に実施され、さらに今後は区と町会で連携した防災訓練や近隣の複数町会合同による防災訓練を実施することで、地域の自助・共助の取り組みを促進していく。
- 本事業で整備した集会施設については、今後施設の利用促進により利用率を向上させるために、地域への施設認知度の強化と多目的広場の利用団体への利用の周知を図っていく。

(様式3) (参考図面) 社会資本総合整備計画 (市街地整備)

